

第8回 災害支援

講師：一般社団法人おもやい 鈴木隆太さん

プロフィール

愛知県名古屋生まれ、本籍は兵庫県神戸市
阪神淡路以降NGOとして神戸で働く
それ以降各地の災害支援に携わる
現在は佐賀県でお坊さんをやっている
地元が災害にあった経験なし

多くの災害地を支援してわかったこと
→災害地ごとに全く状況が違う

令和元年佐賀県の水害

平成2年にも水害が発生した
→当時は外の手を借りずにどうにかなった

【令和3年の水害】

平成2年に比べ、

- ・人口減少
- ・核家族化
- ・高齢化
- ・消防団員の高齢化、高齢者に対する人数の少なさ

-外からの力を借りて活動する方針-

しかし、コロナによってかなり計画が頓挫

水害の状況

- ・これまで軽い被害で済んだ場所も大きく被災

【被災者の状況】

- ・被災の写真を撮影していない
- 罹災証明について知らない
- 災害後の手続きについて知らない
- 高齢化もあり手続き系が難しい

○情報など相談できる場所があった方がいい

→悩ましいことを解決できるような場所、情報交換の場所

○実際に情報交換の場所を作ってみた

→なにかやりたいけどやり方がわからない

→自分のスキルが役に立つがわからない

○チームを作ることができることからやってみた

・清掃

・食事支援

→配食など

・啓発

→制度についての相談など

・見守り

→ナース訪問

・心のケア

→見守り支援

安心して安全に生活できるまちにしていこう

しかし、またすぐに被災してしまったので絶望

安心安全じゃないやん！という気持ち

使えなくなった家財道具はほぼ新品。。

→やっともとの生活に戻れたのにまた被災

→経済的にも限界になり、ローンなどを組んでいる若者はでで行き、高齢者が残る

【今できることは？】

人との繋がりを作っておくこと！

【質疑応答 & 感想】

活動形態は一般の人ではなく、支援経験者の団体を中心に声かけ